

# INTER KYOTO

2012.2.1

No.47

インターキョウト

社団法人 京都府情報産業協会



## Contents 『(社)京情協10周年記念式典・特集号』

- ANIA京都大会 記念式典 .....2p
  - ANIA京都大会 講演会 .....3p
  - ANIA京都大会 懇親会 .....4p
  - ANIA京都大会 エクスカーション .....5p
  - 新春オープンセミナー&賀詞交換会 .....6p
  - SE/システム高度化研究会・経営研究会(3回報告) .....7p
  - 協会だより .....8p
- ビジネス交流フェア/通常総会 CoffeeBreak ~ミニ・ボエム~/編集後記

# 協会10周年の記念すべき年にANIA京都大会



(社)京情協 長谷川会長挨拶

## ● 全国から多数の参加者を迎えて

2011年11月10日、ホテルグランヴィア京都にて、「第33回全情連大会ANIA京都大会」、「京情協10周年記念式典」を開催しました。当日、全国から300人を超える参加者が集い、京情協の会員は、あてやかなスツールを纏い、全国から集ったANIAの会員をお出迎えました。

13時ちょうど、満杯となった会場の照明が静かに落ち、会場前方の大スクリーンに、京都をイメージしたオープニングムービーが映し出されました。それは、今回の大会のテーマ、「古よりの縁があって今がある。そして、今の縁が明日を創る。」を彷彿させるものでした。

## ● 時代の変わり目にあって、いかに生きるべきかを考える

次に、司会の促しにより参加者全員が起立し、3月11日の東日本大震災で亡くなられた方に対して黙祷を捧げました。その厳肅な雰囲気の中、京情協の長谷川亘会長が、開会の挨拶を述べました。長谷川会長は、京都府情報産業協会が創立10周年を迎えた今年、京都においてANIA大会が行われることの意義を語り、今、大きな時代の変わり目にあって、いかに生きていくべきかを考えることが重要であり、「人間社会ではご縁が大切であり、歴史の積み重ねのうえに今があり、未来を創るためには、今のご縁をもとにしなければならぬ」と、今回の大会のテーマについて述べました。

## ● ITという先端を担い続ける決意も新たに

続いて主催者を代表してANIAの中村真規会長が挨拶に立ち、「ANIAは我が国のIT産業の振興のために語りあう場であり、ANIA大会では各地域の協会が集い、地域経済を活性化し、地域のIT化を促進するため、共通の課題について意見を出し合い語りあう機会としたい」と述べました。また中村会長は、「クラウド化によって従来のIT産業は大打撃を受けると喧伝されているが、最近、アメリカで実際にクラウド化の現場視察を行った結果、自らの経験に照らして、逆にたくさんのビジネスチャンスがあると自信を深めて帰ってきました」との話を披露し、「ITという先端を担い続けよう」と決意を表明しました。

## ● 中央省庁、地方自治体の力強いバックアップ

今回の大会は、経済産業省、総務省、京都府、京都市が後援とな

り、公務ご多忙中のなか、それぞれよりご来臨を賜り、ご挨拶をいただきました。経済産業省からは、商務情報政策局地域情報化・人材育成推進室長 小林信彦様、総務省からは、情報流通行政局 地方情報化推進室長 西泉彰雄様にご来臨いただき、今後の日本の産業や社会の発展にとって情報産業が果たす役割並びにANIAの活動への期待が述べられました。また京都府からは副知事 太田昇様、京都市からは 副市長 細見吉郎様にご来臨され、ANIA大会が京都で開催されることへの感謝と歓迎の言葉を述べられました。多くの文化遺産があり、世界的にも有名な歴史的文化都市である京都は、一方で革新的な最先端産業の集積地です。10周年を迎えた京情協には、京都の情報産業の未来を担う活動が期待されています。

## ● 永年にわたる功績を讃える

続いて、ANIA、京情協による功労者表彰並びに感謝状授与が行われました。今回、ANIAの優秀役員表彰として、京情協特別会員である北村 昱 様、植田 弘毅 様が受賞されました。お二人とも、元会長として京情協の組織的基盤づくりへの多大なる貢献を讃えての受賞です。また惜しくも10月に急逝された、一般社団法人 長野県情報サービス振興協会会長の黒坂則恭氏の永年にわたるANIA及び長野県の情報産業に対する功績に感謝の意を表し、感謝状が贈呈されました。一方、京情協では10周年記念表彰を行い、永年にわたり副会長として協会の事業運営に貢献された京情協顧問の北山 寛巳様に感謝状が授与されました。

## ● さらなる発展を遂げる京情協

記念式典の最後、再び、会場の明かりが落ち、大スクリーンに、京都府情報産業協会の10年の歩みを振り返る映像が流されました。平成5年11月に14社で始まった任意団体「京都情報サービス産業協議会」が7年間の活動実績を経て、京都府から認可を得て、社団法人京都府情報産業協会としてスタートしたのが平成13年4月1日。それ以来の歩みが画像とともに綴られ、参加した京情協関係者は、懐かしさを感じました。会員数も増加し、さらなる発展を遂げる京情協。会場の明かりがつけられ、割れんばかりの拍手とともに、ANIA大会並びに式典は盛況のうちに終了し、引続き次の講演会へと進行しました。



ANIA中村会長挨拶



来賓・表彰者一同(前列左:北山氏)



役員表彰(北村氏)



役員表彰(植田氏)

# ANIA京都大会 講演会

## ● 基調講演／田原総一郎氏 「時代を読む」

現代日本を代表するジャーナリスト田原総一郎氏をお迎えし「時代をよむ」というテーマで講演をしていただきました。時事問題に鋭く切り込む田原氏のスタイルは、「朝まで生テレビ！」などでもおなじみですが、今回も冒頭から、TPP参加の是非について率直に賛成の立場を鮮明にし、TPP反対派の真意を論じ、TPP参加によって懸念される日本の医療や著作権などの制度改悪については、全て交渉次第と指摘、今後日本は、アメリカと中国という二大超大国いずれとの関係も大切にしていかなければならないと歯切れよく述べられました。また円高不況は、欧米の経済力が著しく弱いことに原因があり、解消は困難だが、逆に3~5年後には日本の財政赤字で円の暴落のおそれがあると述べられました。

以前と異なり、先進諸国の企業は、侵略戦争も行わずに発展途上国に進出しており、これ自体は良いことです。その反面、国内では産業の空洞化が進み、日本でもこれが最大の問題です。しかし日本の技術力は世界最高であり、そこに問題解決の鍵があると田原氏は言われます。実際、多くの工業製品は日本製の部品抜きでは成立しません。ただ製品にまとめ上げる力が弱く、価格競争で

負けるなど問題もあり、今後、日本は高い技術力をバックに、より高品質で付加価値の高い製品を生み出すべきと田原氏は言います。震災や長引く不況などもありますが、田原氏は、自然環境に恵まれ、治安が良いなど日本社会の美点をとりあげ、決して将来に希望がないわけではないと指摘。会場を埋めた満員の聴衆からは惜しみない拍手が田原氏に送られました。



## ● 講演／ビル・トッテン氏 「これが日本の歩む道」

続いて「これが日本の歩む道」と題して、株式会社アシストの代表取締役ビル・トッテン氏をお迎えして講演をしていただきました。「現在、日本では貧富の差が広がっていますし、300万人が失業し、200万人が生活保護を受けています。そして自殺者が多い」。



1941年米カリフォルニア州生まれで、2006年に日本に帰化されたビル・トッテン氏は、日本の状況は年々悪くなっているとご自身の経験に基づき述べられました。来日当時、累進課税制度に感銘を受けたそうですが、次第に富める者に有利に変更され、現在では、貧富の差に関係なく課税される消費税増税が議論されている、また原発問題を起こした企業に多額の資金を投入したり、円高を抑えるために12兆円も投入するなど、一連の政府の施策に対してビル・トッテン氏は疑問を投げかけ、①消費税は、消費の額の多寡による累進的なものとすべき、②原発事故で被災した人に優先的に資金を投入すべき、③失業者は政府が雇用して、食糧問題への対策として農業に従事させるべきなど、日本の進むべき道を示されました。日本の未来に対する強い危機感に満ちた熱のこもった講演に、聴衆は感銘を受け、今後の日本について考えさせられました。

## ● パネルディスカッション 「これからの日本を考え京都の暮らしの知恵に学ぶ」

最後に、ビル・トッテン氏と株式会社富田屋代表取締役田中峰子氏をパネリストに迎え、京情協長谷川亘会長がコーディネーターとなって、パネルディスカッションを行いました。

京の伝統的な風習を守り、後世に伝える目的で「西陣くらしの美術館」を開設された田中氏から「毎朝家中の神さんごとから一日が始まる」という京の生活が語られました。

そうした文化伝統は大切なものですが、次の世代に伝承することは難しいことです。長谷川会長は、次の世代に伝達するためには、何が必要かとパネリストに問いかけました。ビル・トッテン氏は、文化の継承には人びとの絆が重要だが、その希薄化が特に大都市で顕著であり、インターネットの技術を使って地方や田舎に分散させ、東京への一極集中を改善すべきではないかと指摘。それに対して田中氏は、書きつくせない情報を伝えるためには、Face to Faceで伝えるこ

とも重要であると指摘し、司馬遼太郎氏の文章を引用しながら、自然を尊重することの大切さを強調されました。

最後に長谷川会長から、情報産業では、データ化、知識(ナレッジ)化の時代に続いて、知恵の時代に突入しており、古からの知恵をいかに後世に伝えていくかという問題は、正に情報産業の課題でもあるとの指摘がなされました。それによって「古よりの縁があって今がある。そして、今の縁が明日を創る」という今回の大会のテーマそのものが、情報産業に携わる私たちの共通の課題であることが再確認され、パネルディスカッションは盛況のうちに終了しました。



# ANIA京都大会 懇親会

## ● 呈茶席でのおもてなし



## ● 懇親会

記念式典や講演会も盛況に終わり、夕刻からは懇親会が開催されました。

オープニングはお茶屋「西里」から芸妓さんや舞妓さんにお越しいただき、白扇(はくせん)、わしが在所(わしがざいしょ)、祇園小唄(ぎおんこうた)、鴨川おどりなどをご披露いただきました。

また、アメリカボストンのパークリー音楽院で学んだ女性サックスプレイヤー:清水利香(シミズリカ)さんを中心に結成されたJAZZバンド「GYAO(ギャオ)」の演奏もあり、ご参加いた



いた皆様には楽しい時間をお過ごしいただきました。

以外にも、会場の一角には日本酒のコーナーも設置され、丹山酒造(たんざんしゅぞう)の杜氏(とうじ)長谷川渚(はせがわなぎさ)様にての即売会や、京都伏見の山本本家(やまもとほんけ)様からは銘酒「神聖」(しんせい)を始めとした自慢のお酒をご紹介、更に京情協の会員でもあるスリーエース様からも奄美大島でしか作ることが許されていない、本格黒糖焼酎「甚松」(じんまつ)もご提供いただきご来場の皆様にご堪能いただきました。



### 協賛出展 企業ブース



### 会場併設 特設展示コーナー協賛企業

- 株式会社アシスト ●カゴヤ・ジャパン株式会社、
- 株式会社たけし・フジテレコムズ、
- 富士ゼロックス京都株式会社 ●NTT西日本京都支店、
- 京都情報大学院大学・京都コンピュータ学院、
- 株式会社日立製作所・日立ソリューションズバリュー、
- 富士通株式会社

# ANIA京都大会 エクスカーション

## ANIA京都大会グリーンサミット



実施日：平成23年11月11日(金)  
場 所：瀬田ゴルフコース 東コース  
参加者：25名(6組)  
天 候：曇時々小雨

23年度のグリーンサミット(京情協のゴルフコンペ)は第33回全情連大会・ANIA京都大会のエクスカーションとして開催しました。

ANIA京都大会のエクスカーションということもあり、京情協の会員企業の方以外の方も参加され、いい意味で少しだけ緊張感のあるゴルフを楽しむことができました。

コースは、知る人ぞ知る滋賀県の名門、瀬田ゴルフコースです。大阪や京都からの交通の便もよく、非常に美しく人気のあるコースです。

心配された天候も、時折、小雨が降る程度で、風もなく、非常にいいコンディションでプレーができたのではないかと思います。プレー終了後の表彰パーティーもたいへん盛り上がりました。



### 成 績

優勝 畠山 靖雄 氏 (社)富山県情報産業協会 AWS(株)  
準優勝 松山 言 氏 (株)スリーエース  
第3位 石黒 謙一 氏 ワールドビジネスセンター(株)

## ANIA京都大会京都市内観光



実施日：平成23年11月11日(金)  
場 所：京都市内  
参加者：25名  
天 候：曇時々小雨

大会翌日のエクスカーション行事として、参加を希望された会員様やそのご家族様(25名)を京都市内観光へと貸切バスにてご案内いたしました。京都ならではの体験を身近に感じていただくことを重きに、今大会の木下実行委員長によるプロ顔負けの観光名ガイド、および佐々木実行副委員長の引率によるオリジナルな一日観光を行いました。

京都駅を起終点に京町家での暮らし体験(富田屋さん)、鴨川を眺めながらのお食事、河合寛次郎記念館の見学、非公開の清水焼陶芸工房の見学、清水寺の境内散策などの旅程をゆっくり楽しんでいただきました。



河合寛次郎記念館内(登釜跡)



西陣くらしの美術館(富田屋)

# 新春オープンセミナー & 賀詞交歓会

(所管:地域情報化委員会)

## 農業 × ICT で新しい価値を ～自産自消と耕作放棄地の解消～

実施日: 平成24年1月18日(水)

場 所: 京都平安ホテル

講演者: 株式会社マイファーム代表取締役 西辻一真様

「漁業の場合は、釣りと漁がありますが、農業には釣りに該当するものはありません。ホビーとしての農業があってもいいと思います」。そう語る西辻一真氏が着眼したのは耕作放棄地。「全国には耕作放棄地が約38万ヘクタールほどあり、埼玉県の総面積にも匹敵します。それをチャンスと捉えました」。西辻氏は1982年福井県生まれ。京都大学農学部卒業後、ウェブ関連の株式会社ネクスウェイでの社会人経験を経た後、2007年に株式会社マイファームを設立。耕作放棄地を活用し、これまで農業と接する機会がなかった一般の人々を対象とする体験型農園を事業化されました。

これまで、一般の人を対象とする市民農園などは存在しましたが、マイファームの体験型農園の特徴は、積極的にICTを活用して農業データの「見える化」を図った点にあります。また、指導や管理などのサポートを充実させ、さらにはカメラを使って遠隔地からいつでも作物の様子を確認できるようにするなど農業に「楽しさ」をとり入れ、初心者が参加しやすくなったのも新しい点です。休日になると、マイファームの農場は、家族連れでにぎわいます。

今後、食糧問題が深刻化することは確実ですが、食糧の多くを輸入に頼っている日本の現状には大きな問題があります。西辻氏は、「自産自消のできる社会を目指したい」と語ります。「自産自消とは、自分で作って、自分で食べるということです。体験型農園の事業を通じて、自産自消する人を育成し、日本の耕作放棄地を再生することをマイファームはミッションとして掲げています」。こうし

たビジョンに基づき事業を展開する西辻氏は、雑誌で「日本を立て直す100人」の一人にも選ばれました。

現在、農業においては、マイファームが実践するライフスタイル農業ともいべき流れのほか、大企業が参入して効率よく作物を生産する大規模農業化も進んでいます。そのいずれにおいてもICT活用が課題となっています。そのため、西辻氏は「IT企業には、積極的に農業に参入してほしい」と語ります。情報産業の新たな可能性を提案する西辻氏の講演は、新春にふさわしいもので、会場につめかたけ多くの聴衆は、西辻氏に惜みない拍手を送りました。

また、新春セミナー終了後は、恒例の賀詞交歓会が京都府はじめ関係諸団体のご来賓をお迎えし開催され、会員相互の新陸が大いに図られました。



新春セミナー・開会挨拶



講師: 西辻一真氏



賀詞交歓会(ご来賓一同)



賀詞交歓会・乾杯挨拶

## 「活力」をテーマにSE／システム高度化研究会を開催（所管：技術委員会）

平成23年8月から11月にかけて5回にわたり、SE／システム高度化研究会を開催しました。延べ90名の方にご参加いただきました。今年度は、昨今職場でよく課題として挙がる「活力」をテーマとして掲げました。研究会の冒頭で講師が開発経験や見識を語り、参加者は講師の講義内容を一つのヒントにして、自由なグループ討議を行います。「活力」というような問題において正解はありません。課題が何であるかを参加者自身が認識し、解決へのヒントを見出す事を目標とし、意見交換やワークショップに十分な時間を配分しました。写真はワークショップ「楽しく仕事をする」のひとつです。忌憚りの無い意見が出やすくなるという効果がありました。参加者からは、同じ課題を持つ技術者と共感しあえた、多種多様な意見が聞けたなど、研究会を通じて様々な刺激を得たとの評価を頂きました。来年度も新たな工夫を加えてSE／システム高度化研究会を実施してまいります。



## 第1回経営研究会（所管：経営委員会）

日 時：平成23年7月21日(木) 15:00～17:00  
 会 場：カゴヤ・ジャパン けいはんな データセンター  
 テーマ：「元気のある企業訪問」 企業見学会  
 参加者：11社 14名

第1回経営研究会は、「元気のある企業訪問」と題して、インターネットデータセンター事業を幅広く手掛けておられるカゴヤ・ジャパン株式会社様のデータセンター見学会を実施しました。同社センターのセキュリティチェックを受けた後、建物構造の耐震性、通信設備、電源及びその補助電源、空調管理、保安対策等々、最新設備を見学させていただきました。また、「サーバー置

き場」から「サーバーを活かす場」へと唱えられている同社のお話も詳しく伺いながら、参加者からは興味深い内容でもあり、質疑応答が真剣になされ大変有意義な研究会となりました。



## 第2回経営研究会（所管：経営委員会）

日 時：平成23年9月15日(木) 17:30～19:00  
 会 場：京都コンピュータ学院 京都駅前校 新館4階会議室  
 テーマ：「フリーウェアと著作権についての諸考察」  
 講 師：弁護士・弁理士 岡田 一毅 様  
 参加者：15社 18名

第2回経営研究会は、「フリーウェアと著作権についての諸考察」と題し、その諸問題の解説と対策をご講演いただきました。著作権に関する基礎的知識から、フリーソフトウェアの定義と生じうる諸問題についてご講義いただいた後、実務対応について実例を含めながら注意点を講義いただきました。特にアメリカ法での制約に対して日本国内で法規制のない場合の対応等、企業トップの取るべき行動とか、著作権侵害と実務対応では、法的紛争のコストなどについて、あくまで立証責任は被害者側にあるとの解説を頂きました。質疑応答の中では、ユーザーが侵害性を判断することが難しいケースなど、法律への実務対応の注意等をお伺いしました。



## 第3回経営研究会 (所管:経営委員会)

日 時: 平成23年11月17日(木) 17:00~19:00  
 会 場: 京都コンピュータ学院 京都駅前校 新館4階会議室  
 テーマ: 「市場変化に適応した新卒採用と早期戦力化を見据えた人材育成」  
 講 師: 株式会社 イニシアチブ・パートナーズ 取締役 岡 春雄 様  
 参加者: 11社 13名

第3回経営研究会は、「新卒採用・人材育成セミナー」として上記テーマで実施致しました。

新卒採用においては、混迷する国内外の経済情勢のなか、企業にとっても、学生にとっても採用活動に様々な変化が生じて来ております。このような採用市場の変化を捉え、限られた時間の中で応募者を評価する観点や面接官のスキルなど採用活動をより良く行なうためのポイントをお伺いしました。後半は早期戦力化を見据えた新人教育や職場環境のあり方、或いは受け入れ側の注意点などについて人材育成の重要性と共にIT企業の事例を交えながらお話しをお伺いしました。また、近年急増している若手社員のストレスケアについても解説を頂きました。



## 協会だより

■正会員 60社 ■特別会員 2名 ■賛助会員 11社

会員の皆さまの新入会員紹介、勧誘について特段のご協力をお願いいたします。

### ●お知らせ

#### 京都ビジネス交流フェア2012

開催日時 平成24年2月23日(木)、24日(金) 10:00~17:00

テーマ 「つながる、拡がる、ビジネスフィールド」

会 場 京都府総合見本市会館 京都パルスプラザ(大展示場)

#### 平成23年度 第2回通常総会 開催

開催日時 平成24年3月下旬 15:00~(予定)

議 案 「平成24年度 事業計画・予算などについて」

会 場 未定

## Coffee break ~ミニポエム~

飛行機雲が 裂いていく空  
縫って閉じたい 静かに空を

路上の冷たさ まぶしいひかり

目を閉じてみる まぶたの底は  
とても鮮烈 紅色になる



## 編集 後記 Vol.47

昨年は東日本大震災、福島原発事故等、未曾有の災害に見舞われましたが、一方では私も京都府情報産業協会の創立10周年に当たり、11月にはANIA京都大会の開催に併せて記念式典が盛大に執り行われました。

本年は新たな10年に向かって再スタートの年であり、新年度からは一般社団法人に移行する予定となっております。会員企業皆様の知恵を拝借しながら、より良い協会に育つよう、広報委員会としても広報誌「インターキョウト」およびホームページを通して精一杯努力する所存です。今後とも「インターキョウト」をよろしくご祈り致します。

京情協WEB CONTENTS <http://www.kyojyokyo.or.jp/>